

## 令和6年度 横浜平沼高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
1 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の適切な管理と、情報セキュリティ対策を徹底する。	(ア) 職員は成績処理、調査書作成において個人情報の管理を徹底して行った。 (イ) 管理職は不祥事防止研修を通じて、生徒の連絡先の適切な収集及び連絡方法についてルール遵守を確認し、保存場所や管理方法についても確認した。
2 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜の実施と成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る体制と手順を明確にし、事故を防止する。	(ア) (入学者選抜・成績処理) 担当グループ等は行程表作成や要項読み合わせ等を行って手順とチェック体制を確認し、職員はスケジュールや手順に則って業務を適切に行った。 (イ) (進路関係書類の作成・取扱い) 担当グループは各種作業の詳細をマニュアルに明記して手順や体制を整備し、職員はマニュアルに基づいて業務を適切に行った。
3 生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	啓発活動及び相談体制の整備によりわいせつ・セクハラ行為を防止する。	(ア) 担当総括教諭は多様性をテーマに職員研修を行い、人権が尊重される社会づくりの啓発に努めた。 (イ) 若手職員が相談しやすいように、多くの職員が声掛けやアドバイスを積極的に行った。
4 体罰、不適切な指導の防止	生徒理解に基づく指導を推進し、体罰・不適切指導を防止する。	(ア) 管理職は不祥事防止研修を通じて、自分の指導・支援を振り返らせ、処分数や処分事例を示した。 (イ) 職員は日頃から生徒の様子に目を配り、気になることがあれば保護者や学年団との共有に努めた。
5 法令遵守意識の向上	公私を問わず高い倫理意識を求められる公務員として、県民の信頼の確保に向けて不祥事の根絶を目指す。	(ア) 管理職は不祥事防止研修を通じて、服務規律の遵守とコンプライアンス意識の醸成を図った (イ) いじめの法律に基づいた対応など、当該グループは不祥事防止研修を通じて職員の法令順守意識向上を図った。
6 職場のハラスメントの防止	啓発活動及び相談体制の整備によりハラスメント行為を防止する。	(ア) 管理職は面談の機会を多くとり、不祥事防止研修を通じたハラスメント防止の注意喚起を行った。 (イ) 若手職員が相談しやすいように、多くの職員が声掛けやアドバイスを積極的に行った。
7 業務執行体制の確保等	職員全体で業務の安全で円滑な執行のための体制づくりを進める。	(ア) 管理職による指導、助言やグループリーダーによる適切な業務管理、進行管理により、職員は業務内容の整理やスケジュールの共有を進めた。 (イ) オフィス改善を通じて、ワーキンググループは業務執行環境の整備を長期的視点で計画した。職員は指導や業務に必要な文書、備品、施設等の見直しを図り、整理を進めた。

8 会計事務等の 適正執行	私費会計に係るルールを周知し、会計事務を適正に行う。	<p>(ア) 私費担当者は予算の把握と適切な執行を行い、請求者とともに着実な納品確認を行った。また不要予算の見直しや将来の執行計画を立案した。</p> <p>(イ) 管理職は財務事務調査指導の内容を職員に周知し、不祥事防止研修を通じて適切な私費会計取扱いの徹底を図り、リスク管理に向けて啓発した。</p>
9 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故、並びに交通違反を未然に防止する。	<p>(ア) 管理職は不祥事防止研修でスクリーニングテストを行うなど、飲酒運転等の根絶に向けた職員への意識啓発を行った。</p> <p>(イ) 職員は啓発資料や同僚との情報交換により飲酒や運転に伴う不祥事を避ける心構えを身につけた。</p>

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

取り組むべき行動計画を職員別に定めたゼロプログラムを実施した結果、当初の目標は概ね達成された。特に課題1, 2, 3, 5については担当職員で企画、実施した職員研修により、取り組みを深めることができた。

令和7年度も令和6年度の各課題について継続して取り組み、特に必須5項目については重点的に取り組みたい。とりわけ、生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止については指導を徹底するとともに、「いじめ」の把握があった際は法令に基づき適切に対応したい。